



ネコハエトリ号

《私が子どもだった頃》 飯村 優

私は終戦後に大道へ越してきた両親の元で、1947年に生まれました。

その頃の大道は高舟台住宅も三信住宅もなく、西の朝比奈の山と北の高舟台方面、南の三信方面と三方が山つづきでした。

朝比奈の森を源流とする侍従川を中心にして、住宅の近くまで畑や田圃、野原などが山際まで点在し、小さな里山としての空間になっていました。

侍従川との最初の係わりは幼稚園児の時です。当時大道には幼稚園はなく、西六浦の信号の所から釜利谷へ抜ける旧道に入ってすぐの長生寺と言うお寺で幼稚園が開設されていました。現在の様に送迎バスなどはなく、帰りは同方向に帰る園児が何人かでブラブラと歩いてかえたもので、まるで猫の放し飼い状態のようだったと思います。

ある時、帰る時間になっても帰らない私を母が探しにでたところ、大道小学校近くの侍従川に降りてカニとりに夢中になっているところを見つけたそうです。昔の侍従川の側壁は自然石が積上げられていたので、石の隙間にたくさんのカニがいました。前後の記憶などは不明ですが、石の間から出て来たカニをつかまえようとすると、さっと穴に入ってしまう、カニのハサミや甲羅の赤い色が断片的な映像として記憶に残っています。



ネコハエトリ (猫蜘蛛)

英名: *Carrhotus xanthogramma*

体長: 8ミリ

分布: 北海道、四国、九州

解説: ハエトリグモの仲間ではよく目にする種類の一つだが、野外の藪や雑草地に多く、家屋内で見かけることは稀である。成体で越冬し、越冬用の巣は糸を泥でドーム状に固めて作る。雄と雌では大きさ形にかなり差があり、雄のほうが大きくなる。闘争本能が強いので、千葉県では古来から本種を戦わせる遊び“ホンチ”が今でも残っているらしい。

熊井 健

小学校に入ってから、川でメダカやドジョウ、川エビなどをとりました。川でウナギとりをしている大人を見かけた事もありました。

その頃、男の子の遊びで面白かったのは、家の周りや野原にいたホンチという小さな黒いクモを捕まえて戦わせる遊びです。ホンチを捕まえて入れておく紙箱も近所の駄菓子屋さんで売っていました。現在でもたまにこのクモを見かけますが、子どもの頃の遊び仲間に出会ったような感じで、一瞬子ども時代を思い出します。

身近に山があったので、山でよく遊びました。現在鎌倉霊園になっている所も、昔は霊園などなく戦時中の軍の施設跡が残っていて砲台山と呼ばれていました。そのあたりに山桜の木が沢山あって、山サクランボの実がなり、その実を仲間と木に登って食べたこともあります。皆、口の周りを紫色に染めて帰って来ました。今でも山桜の木は朝比奈周辺の山にはたくさんあるのですが、みな大木になっていて簡単に登れるような木は見当たりません。

侍従川のそばに田圃のあった頃は、川の上流で山ウドなどの山菜もたくさんあり、初夏の夜はホタルの乱舞も見事な情景でした。

田圃の奥の谷戸には池もあって、イトトンボ、オハグロトンボ、オニヤンマ、ギンヤンマなどたくさんのトンボが見られました。山際の道を低い位置で真っ直ぐに飛んで来る王者の風格をもつオニヤンマ、虫捕り網の届かない所を飛ぶ女王のようなギンヤンマ、これらの虫を追いかけて、夏の1日を過ごした時間の長さは今思うと夢のような日々でした。

現在でも、山菜、キノコ、果実酒作りに使う木の実など採りに、年間を通して山に入り、自然と共に生活しています。

(おわり)



侍従川定例調査報告 学生部

12月28日(日) 13:00~15:00 晴れ

【中流】〈長島橋-第二山王橋〉

チチブ、ウキゴリ、スミウキゴリ、ビリング、ミゾレヌマエビ

【源流】〈朝比奈町本流の源流〉

スミウキゴリ(5)、ダビドサナエ(5)、ミレンヤンマ(3)、
コシボンヤンマ(1)、アサヒナカワトンボ(4)、モンキマメ



ゲンゴロウ(4)、ヌマエビ(1)

※ダビドサナの数が増えた印象があった。複数個体が確認されたのは初である。

〈朝比奈町蛭谷戸〉

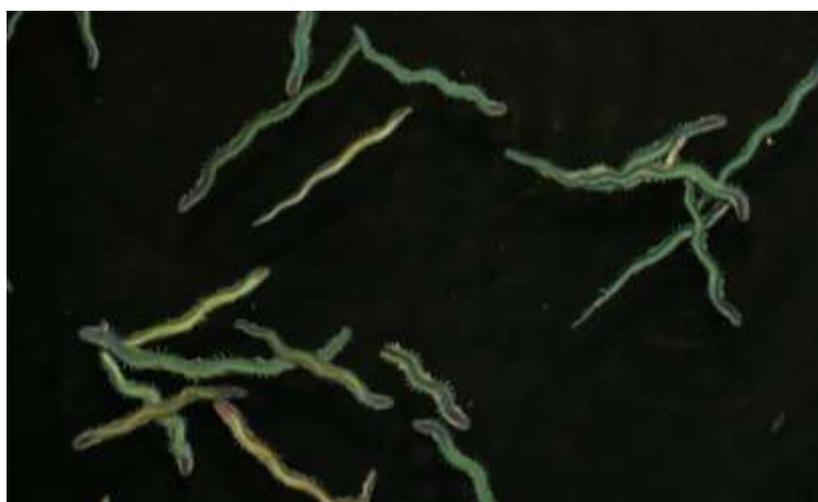
モンキマメゲンゴロウ(6)、シマアメンボ(3)、ケシカタビロアメンボ(多数)、ミズムシ(多数)、カワニナ(多数)

※蛭谷戸では少ないモンキマメゲンゴロウが畑の脇にある水路で複数個体確認された。

この水路では今まで見たことがなかったので移動してきた可能性も考えられる。



バチヌケ調査 2015



2015/2/21 侍従川右支川

バチヌケとは？

バチヌケとはゴカイの仲間(多毛類)が産卵のため川底の泥地から這い出て水面を浮遊する状態をいいます(バチ=多毛類、ヌケ=抜ける)。バチヌケは2月から4月頃の大潮後に多く見られ、大量の多毛類がウニョウニョと水面を漂うのです。

【調査日】

2015年2月21日(19:50~20:30)および3月10日(20:00~21:00)

【調査地点】

《2月21日》高橋-平潟橋および右支川 調査者：佐野・松澤

《3月10日》高橋-新川橋および右支川 調査者：佐野・磯邊・山田

【結果】

《2月21日》

高橋-新川橋および右支川で見られました。特に右支川では多かったです。

《3月10日》

汐見橋で1個体のみでした。

【まとめ】

3月10日は、潮の日程は良く、多く見られると予想していたのですがほとんど見られませんでした。

偶然出会った釣り人に聞いたところ、この日数時間前に降った雨の影響なのではないかとのことでした。

学生部調査

侍従川流域におけるヤマアカガエルの産卵状況の調査(2015)

学生部調査



ヤマアカガエル

ヤマアカガエルは1月から3月頃にかけて田んぼや池、水溜りなどに卵を産みます。かつて侍従川流域ではいくつか産地がありましたが、近年は激減しています。

今回は前年の調査結果と比較してご紹介します。

表1. 2015年のヤマアカガエルの産卵状況

日付	地名	卵塊数	確認者名	備考
150117	朝比奈小学校	0	佐野	
150122	朝比奈小学校		伊藤先生	産卵確認
150201	朝比奈小学校	43	佐野	
150201	切り通し入口	3	佐野	湿地に2、水路に1
150201	大道小学校	0	佐野	
150211	大道中学校裏山	1	佐野	
150227	朝比奈小学校	31	佐野	新たに31卵塊を確認
150313	大道中学校裏山	3	佐野	ウキクサ池に1、奥の池に2
150313	切り通し入口	5	佐野	湿地に3、水路に2 (2/1と同一を含む)
150315	大道小学校	1	佐野	蓮田で確認。すでに孵化していた。

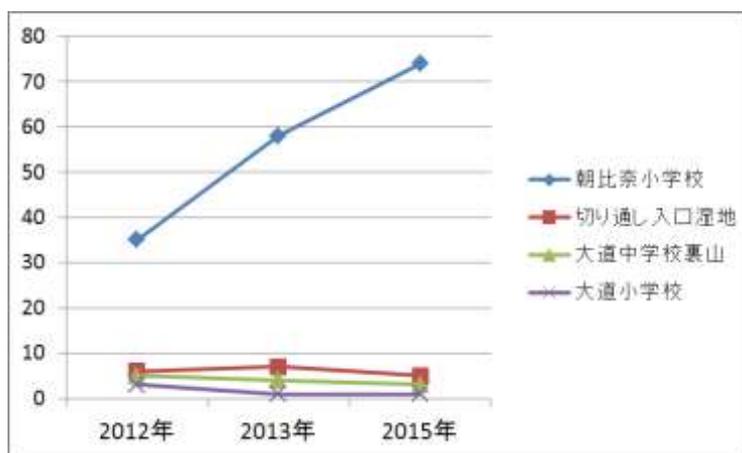


図1. 生息地4ヶ所の産卵数の変遷

侍従川流域のヤマアカガエルの産卵は、4カ所で確認されています(表1)。そのうち3カ所は毎年産卵数が減っているため、絶滅が心配されています(図1)。

切り通し入口湿地は、昨年土砂崩れで湧水が止まり湿地が干上がりましたが、今年は湧水が復活して産卵を確認できてホッとしました。

朝比奈小では増えている!



2015/2/1 卵塊 朝比奈小学校で撮影

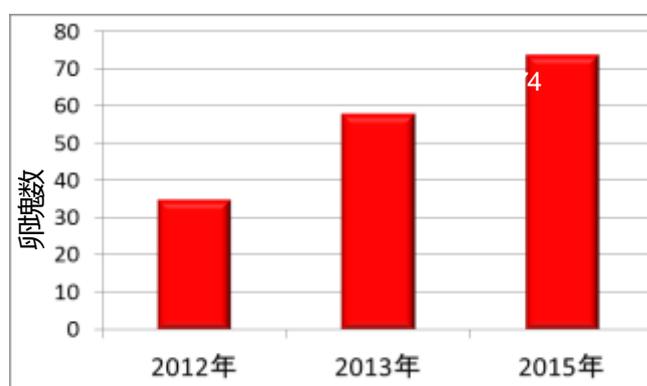


図2. 朝比奈小学校におけるヤマアカガエル卵塊数の変遷

朝比奈小学校では、2012年8月にビオトープを復活させてから毎年産卵数が増えています。今年は今までの最高で、74卵塊が確認されました(図2)。

冬の森たんけん

【活動報告1】

12月13日(土) 9:00~16:00 今井しょう太(小3)

12月13日(土)、冬の森たんけんに行った。たつくんの弓矢が他の人と形が全ぜんちがって、すごく速かった。だいちがターザンロープをシュツシュツとひっぱったら、ズドンと落ちた。小川でヤゴをいっぱいつかまえた。何のヤゴかわすれてしまった。テナガエビをつかまえた。全部で20~30人くらい来ていた。木の上にクリがなってると思ったら、タワシ!?だった。みんな、そのあとその木の名前を「タワシのなる木」と言っていた。すごく楽しかった!! タワシのなる木がとってもおもしろかった。



ぼくの弓矢と、たつくんの弓矢

12月定例クリーンアップ

【活動報告2】

12月28日(日) 9:10~11:00 晴れ 4℃

朝比奈橋~大道橋~大道東橋(清掃)

細川一雄

参加者：長橋輝明、西澤博厚、八木場紀元、角田繁、関場俊子、村田章夫、高橋のりみ、寺尾勝廣、山田陽治、石塚正夫、鳥越昌三、鳥越典子、鳥越龍、今井康祥、今井幸子、今井翔太(小3)、今井はるか、佐野真吾、嶋村真依、深沢大地(中2)、金澤瑛士(中1)、金澤喜乃、細川一雄(計23名)

今年最後のクリーンアップは、寒波の合間で少し寒さと風がおさまった日となりましたが、それでも4℃と寒さが体に応えます。参加者には少しでも暖かくしてもらおうとポケットカイロを配りました。忙しい中、時間が取れたという横浜市議会議員の高橋のりみさんと、手術後体調がようやく回復してきた長橋さんが参加してくれました。会の活動を忘れずに来てくれた事は大変嬉しいです。



ブックオフ下のガラス片割れて散らばっている

今月も、子ども達は下流地域、大人たちは上流地域に分かれて作業を開始しました。地藏前橋から川に入り、上流に向かっていくと、右岸側に小さなガラス片が沢山落ちていました。擁壁の上にも落ちていました。ガラス片は蛍光管が割れたもので、ブックオフの廃棄物集積所が丁度その上にあるので、そこから割れて落ちてきたものと思われます。同行の高橋議員にもその状況を見てもらったところ、行政から指導をしてもらうように要請するとの事でした。



ブックオフの廃棄物集積所(蛍光管が置いてある)

擁壁にまだ残っているススキの葉を切り、擁壁から飛び出しているススキの根っこを切り取りながら川を下ってきて11時頃にちとせ園に着きました。子ども達はゴミ拾いを終え、既にちとせ園に到着していました。

今月はガラスの破片が沢山落ちていました。ガラスは他のゴミと違い間違っただり触ったりすると怪我をしまうので大変危険です。改めて川にガラスを捨てる人の常識・モラルを疑ってしまいます。

今年最後のクリーンアップという事で、今井さんが甘酒とトン汁を作って皆にご馳走してくれました。とっても美味しく2杯もお代わりをしてしまいました。有難う御座います。また、大人たちは忘年会も兼ね、ホタテ貝のバーベキューをし、皆で楽しく飲み食いし、12時過ぎに解散しました。来年も宜しくお願い致します。



地藏前橋上流の清掃活動



回収したゴミ（8袋分）

ネイチャークラフト教室

【活動報告3】

1月10日（土） 9:00～15:00

海老明子

朝、山に行って蔓を取りに行きましょうと、山田さんがおっしゃいました。

山に行けど私に蔓は見当たりません。

レクチャーを受け、目も慣れてくると沢山の蔓が木の上や地に這っているのが見えてきました。

子ども達も大喜びで、こっちにあった、あっちにある！と大騒ぎ。両手に余るほどの蔓を取ることができました。

学校に戻ってからはいよいよ籠作りです。

この細いウネウネした蔓で一体どんな籠が出来るというのでしょうか。

教えて頂きながら（そして先に作られたという素晴らしい見本に感動しながら）、蔓を編んでいきました。

子どもも私も夢中で編みました。

だんだん形が出来てきて、出来上がりはちょっと驚く程立派な籠ができました。子どもも大喜び。

今は、我が家のリビングでおもちゃ入れになっています。

子どもはよほど面白かったのか、余った蔓をもらってきて家でもう一つ編みたかったと言っていました。





1月定例クリーンアップ

【活動報告4】

1月25日(日) 9:10~11:00 晴れ 5℃

朝比奈橋~大道橋~大道東橋(清掃)

細川一雄

参加者：長野政治、八木場紀元、角田繁、石塚正夫、関場俊子、村田章夫、外川忠志、高橋のりみ、山田陽治、今井康祥、今井幸子、今井翔太(小3)、今井はるか、本松お母さん、本松航(小3)、深沢大地、金澤瑛士(中1)、金澤喜乃、片岡生一(小6)、細川一雄(計20名)

今年最初のクリーンアップ当日は、前日の寒さが少し収まり、風もなく日差しが少し暖かく感じられる絶好の天気となりました。寒さの中にも梅や桜のつぼみが少しずつ膨らんできてゆっくりですが季節が変わっていくのを感じられます。

今月も、子ども達は下流地域、大人たちは上流地域に分かれて作業を開始しました。地蔵前橋から川に入り、上流のブックオフの廃棄物置き場を見ると、先月と変わらずガラスが剥き出しになったままでしたので、そこから岸に上がり、ブックオフの店長さんに会って実情を説明し、善処してもらおうようお願いしました。

上流域には吸殻以外のゴミはあまりありませんでしたが大道橋上流右岸には沢山の鰯の頭が落ちていました。誰かが故意に捨てたようです。また、大道橋から下流には相変わらずガラスの破片が沢山落ちていました。

大道幼稚園の裏の土の部分からフキノトウが10個位出ていたので、春の恵みとしていただきました。また、大道橋下のロウバイの木には小鳥の巣がありました。



朝比奈橋下流の作業



里野橋下流の作業



大道橋上流の沢山の鰯の頭(白い点が全て鰯の頭)



ロウバイに作られた小鳥の巣



回収したゴミ

2月定例クリーンアップ

【活動報告5】

3月1日(日) 8:50~10:00 曇りのち雨 7℃

朝比奈橋~大道橋~二の橋(清掃)

細川一雄

参加者：八木場紀元、角田繁、石塚正夫、西澤博厚、村田章夫、細川一雄(計6名)

前回は雨の為延期になり、今回も雨の予想の日曜日となりました。今にも雨が降りそうな天気でしたが、作業が終わるまで持つかもしれないとの一縷の望みを胸にいつもより早めにスタートしました。

地蔵前橋から川に降り、いつものとおり朝比奈橋まで遡り始めるとポツリポツリと雨が降り始めました。折角作業を開始したので何とか大道橋まで下るつもりで、早めに歩いてゴミを拾いました。

何とか、本降りになる前に大道橋までたどり着きましたが、大道橋の下の深みに沢山の空き缶が落ちていました。自作の引っ掛け棒が途中で壊れてしまったので、川に落ちていた竹を折って棒にし、深みの空き缶を回収しました。もうすぐちとせ園だというところで雨が本降りになり、これ以上の作業は無理と判断し終了しました。



ブックオフ下の清掃風景



回収したゴミ

トピックス

第29回横浜の水辺と緑を考える子ども会議実行委員会が、1/17(土)、2/15(日)、3/14(土)獅子ヶ谷小学校と、討論会のテーマになる二ツ池で行われました。当会から、委員長に片岡生一君、副委員長に高橋一太君が選出されました。



二つ池での生き物採りの様子

《生き物発見記録》

- 1/22(木) 朝比奈小学校でヤマアカガエルの産卵確認(初見)(朝比奈小 伊藤先生)
- 2/21(土) 侍従川(高橋-新川橋・右支川)でバチヌケ確認(佐野・松澤)
- 3/7(土) 東朝比奈 佐野家実家でアズマヒキガエル産卵確認(佐野)

大道村活動報告

わらでお正月飾りをつくりました！

12月20日(土)は、あいにくの雨で、寒い日でしたが、のべ50人を越える人で会場は熱気につつまれました。古くから地域に伝わる「お正月飾り」をみんなで作り上げました。



むかし体験スクール であたたまりました！

1月17日(土)・・・寒い日でした。トンボ池前でまき割り、マッチ火付け体験をしたあと、お湯をわかして「湯たんぽ」でぬくぬく。最後は、七輪を使って焼いたおいしいおせんべいをぼりぼり……。笑顔の輪に心もあたたまりました。



武州金澤学講座 **地域の歴史** 2月21日(土)

金沢八景のはじまりの地

能見堂について 学びました。

能見堂から描かれた絵、出版された絵図と本、明治時代の能見堂を見ながら講師 飯塚冷子さんのお話を聞いて、金沢区の魅力を再発見しました。



朝夷奈の森通信 ～森の忍者より～ 飯村優介

2014-10 月は中旬に朝比奈の森で秋キノコが盛りになりました。

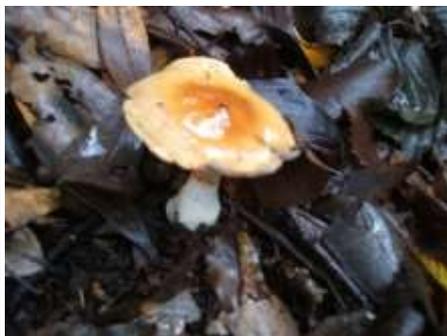
森の生えている様子と収穫後をみてみましょう。

新鮮なうちに下ごしらえが大切で、広げて料理別に分けます。

ウラベニホテイシメジ、クリフウセンタケ、ムラサキシメジ、シイタケの盛り合わせです。



ウラベニホテイシメジ



クリフウセンタケ



盛り合わせ

琉球生き物紀行 ～美ら島の生き物たち～

～ ナナホシキンカメムシ ～



撮景地：石垣島



成虫の群れ 撮景地：石垣島



幼虫 撮景地：沖縄本島

学名：*Callipahata nobilis* 体長：18～20mm

分布：沖縄島、南大東島、石垣島、西表島、台湾、東南アジア

沖縄の里山から山地にかけて見られる美しいカメムシの仲間で、ときに数百匹の群れが葉の裏に止まっていることがあります。その年によって発生にばらつきがあり、たくさん見られたかと思えば、全く見られない時もあります。その臭いは悪臭ではなく、オレンジのような甘酸っぱい臭いを出します。カキバカンコノキを探すと見つかります。

監修：熊井（沖縄在住）

佐野真吾が語る侍従会の思い出 ～“子ども好き”ということとは？～

よく、「子どもが好きだ」という人がいますが、子どもが好きってどういうことなのだろう？と、私は考え続けてきました。

2006年、この年私は大学生になり、侍従会の中では大人の立場として関わるようになりました。前回の話で書いたように、最初は子どもたちとどのように関わればいいのか分からず、子どもに対して苦手意識を持っていました。しかし、そんな悩みはすぐに克服され、子どもたちとの活動が楽しくてたまらなくなりました。私が子どもたちと関わる中で刺激を受けたのは、子どもたち一人一人に個性があって、また、想像もできないような行動をとったり、何故こんな行動に至るのか分からなかったり、生き物と同じような感覚で面白いと感じたことでした。そのため、最初の頃の私は、個性的な子どもが好きで、そんな子どもを観察することが楽しくて活動に参加していました。

例えば、普段の生活で周りの子たちと同じようなことができない子が、何かハマったことに対してはずば抜けた能力を発揮することがあります。そんな個性を見た時、私は珍しい生き物と出会った時のような嬉しさを感じました。さらに数年活動が続けていると、個性が目立つ子だけでなく、一見普通に見える子にもギャップのような一面があり、誰にでも個性があることに気づき自分の中で楽しめる幅が広がりました。

また、この頃になると子どもたちとの関わり方に慣れてきたこともあり、子どもたちにチヤホヤされる楽しさと癒される快感も覚えました。20歳前後の若い兄ちゃん、少しノリが良かったりすると子どもたちはかまってくれます。きっとそれは若い頃にだけ使えるコミュニケーション術なのです。しかしそれに気づかず少し人気者になったような感覚になり、そんな自分自身が感じる気持ち良さを子ども好きなのだ勘違いしたこともありました。ここまでが21、2歳頃の私です。

しかし、この頃、私は生き物の研究や保全活動など、その世界の前線でやっている人たちと出会い、自分の未熟さを実感しながら、それでも自分は生き物が好きだから、その人たちと同じ世界で、生き物好きを通せる人生にしたいと、思いが固まった時期でもありました。そのため、侍従会で行っている市民活動や環境教育、啓発活動は大切なことで、これからも続けていきたいことだとは思っていましたが、自分の夢と目的という主軸から繋がる活動にしていかななくてはならないと思うようになりました。このような自身の変化もあり、「子どもが好き？」っていったい何なんだろうと考えるようになったのです。



よく子どもが好きだから先生になりたいとか、ボラティアをやりたいという人がいます。そんな人たちは子どもたちの何か好きなののでしょうか？

本当はチャホヤされたり、褒められる自分自身が好きなのではないのでしょうか。そんなことを考えると、私は子どもたちを生き物と同じように見ている興味の対象として好きなのかもしれないと思いました。チャホヤされる楽しさや癒される快感は、言い方は悪いですが、活動を始めて3、4年で慣れて、自ら欲しようとは思わなくなりました。しかし、子どもを面白いと思い、興味の対象としての見方は、飽きることも無く、自分の中でのごまかしようのない部分なのだと思います。だからせめてそこに嘘はつかず、「自分は子どもたちのためを思って活動しているのではない。自分が子どもを見るのが面白いから、それが好きなんだ！」と、ちゃんと言っていこう！と思いました。一見歪んだ人のような言い方ですが、自分の中では正直な思いでした。

24、5歳頃、私が侍従会の中で、大人の立場として関わるようになって、6、7年が経ちました。6、7年もやっていると長い付き合いになる子もいますし、当時小さかった子どもたちも大きくなります。そして中には大人になり同じ立場として活動する子も出てきます。この頃、私の中ではまた違った心の変化がありました。それは子どもたちを「子ども」として見るのではなく「仲間」として見るようになったことです。長い付き合いをしていると、お互い私的な感情や信頼感を持ちますし、強い仲間意識が生まれてくるのです。この頃から私は、新しく出会う子どもたちに対しても、最初の出会いは興味の対象として見ていたのが、「仲間になりたい」という感情を持つようになりました。またそれと同時に、子どもに対して期待や要求を持つようになりました。それは、大人と子どもという違う生物として見ていたものではなく、一緒に活動する仲間としての愛情なのだと思います。そして最近、21、2歳の頃考えた、自分の夢と目的に繋がるような自分自身の侍従会での在り方が少しずつ分かってきました。

私は教育者や指導者ではありません。人間の生活より生き物の生活を調べる方が面白いと思っている生き物屋で、そんな生き物たちがいなくならないように守る保全活動をしていくことが私にとっての最優先です。だから、侍従会で出会った子たち、そしてこれから新しく出会う子たちには、生き物に理解のある子になってほしい、欲を言えば将来一緒に虫とりをしたり守る活動をできる仲間になってほしい、そしてそんな思いを伝えていくことが侍従会での自分の役割なのだと思います。

というわけで、私にとっての“子ども好き”は、興味の対象としては子どもより生き物の方が好きです。しかし、人としては、仲間である子どもたちが好きです。

『佐野真吾が語る侍従会の思い出』 つづく





虫のきょういく座談会 ～我らが決める十二支～



参加者：山田、深沢、歩海、佐野

2015年1月3日20時半頃、その日我らは新年早々夜の磯へと向かっていた。これは磯へ向かう車の中での話である。今回のテーマは「我らが決める十二支」ということで、我らが神様になって十二支の生き物を勝手に決めてしまおうという図々しい企画である。

佐野「では座談会を始めましょう！ みんなどんな動物を十二支に入れたい？」

歩海「ネコ！！」

佐野「さすがネコ好き！（笑）」

山田「でも確か猫は十二支に入れなかったストーリーがあるんだよね？」

深沢「ネズミに騙されたんだよ！」

歩海「じゃあやっぱりネコは入れるべきだ！ あとクジラも入れてほしいな！」

佐野「クジラは確かに捕鯨とか日本を含めたアジアの文化にもあるからいいよね！ ちなみに今年は羊年だけど十二支にヒツジっていらなくない？ アジアっぽくなくて馴染みなくない？」

歩海「ヒツジはモンゴルとかインドの方が有名だからアジアだよ！」

山田「干支は中国を中心にアジアに広く伝わる文化らしいけど、なるべく日本っぽいのがいいよね！ ちなみに俺は毎年、年賀状に干支の絵を書くから、絵が書きやすい動物がいいなあ。」

佐野「年賀状の絵と言えばだいちゃん（深沢氏）から来た年賀状の“ヒツジグザ”の絵はよかったよ！ 日本在来のスイレンだし最高だった☆」

深沢「いろいろ調べたんだけど、ヒツジグザくらいしか羊に関係する生物がいなかったんだよ！」

佐野「じゃあとりあえず、現在ある干支の中でそのまま残してもいい動物はある？笑」

山田「ヘビとトラ！」

深沢「龍！！」

歩海「全然日本っぽくない…（笑）」

山田「ヘビは絵が書きやすい！ トラはカッコイイ！」

深沢「龍もカッコイイじゃん！」

山田「ていうか、ウシ・イノシシ（ブタ）・トリは“肉”って感じだよね！」

佐野「は？（笑）」

山田「ついでにウマとヒツジもひっくるめて“肉年”でいいよ！！」

歩海「ヒドすぎる…笑」

こうして残酷な神様、山田氏は5種の動物を廃し“肉年”を定めてしまった。さらに、絵を描くのが楽しいという自己中心的な理由から昆虫と甲殻類からスカウトし、ハンミョウ、オサムシ、カニが採用された。

山田「カニの絵は描いていて楽しいね☆ サノシンはゲンゴロウ年はつくらないの？」

佐野「そうですね！ ちなみゲンゴロウは中国では“龍風(ロンスー)”って言うんですよ！

だからロンスーと書いて“ゲンゴロウ年”にしますか☆」

歩海「日本っぽさについて忘れてるでしょ？ (笑)」

深沢「でもさあカニが入ったら十二星座とかぶるよね。蟹座、牡牛座、牡羊座ってあるでしょ？」

山田「確かに十二星座には他にもヤギとか獅子もいるもんね！ ヒツジ・イノシシとかぶるね。」

深沢「俺は十二星座こそ変えたい！ 自分は乙女座だけど他の星座がよかったな！」

山田「サノリ座はカッコイイね！！」

佐野「話が脱線してきましたね！笑」

山田「俺ってよく話が脱線するよね？」

佐野「しますね！ (笑)」

山田「自分の中で勝手に解決しちゃうんだよねえ。俺が話を脱線した時は、もう自分の中でその話題への興味を失ってしまっているんだ。」

佐野「じゃあ話が終わったということで本座談会を山田さんがまとめてください！」

山田「ええ～いつもサノシンがまとめてくれるじゃん (笑)」

佐野「フナムシが一番！ みたいなのでいいですよ！ (笑)」

歩海「なにそれ？ (笑)」※2011年ジョウビタキ号の座談会をご覧ください

山田「じゃあウシ・イノシシ (ブタ)・トリ・ウマ・ヒツジをまとめて肉年で！！」

こうしていい加減な神様たちは十二支を新たに定めたのである。なお、新干支は以下の通りである。

【新干支発表】

旧：牛・馬・鳥・羊・猪

継続：蛇・虎・龍 その他は保留…

新：斑猫(ハンミョウ)・箴虫(オサムシ)・
龍風(ゲンゴロウ)・鯨(クジラ)・猫(ネコ)・
蟹(カニ)・肉(にく)…

(おわり)



事務局だより

事務局運営委員 長橋 輝明

◆ 4月～6月の活動予定 ◆

☆定例クリーンアップ 4/26(日)、5/24(日)、6/28(日)

9時～12時 ちとせ園集合 ※雨天延期…翌週日曜

持ち物：川に入れる格好（長靴の貸出あり）、タオル、軍手（必要な人）、網（使いたい人…貸出あり）、着替え（心配な人）

※川の上からの参加でも構いません



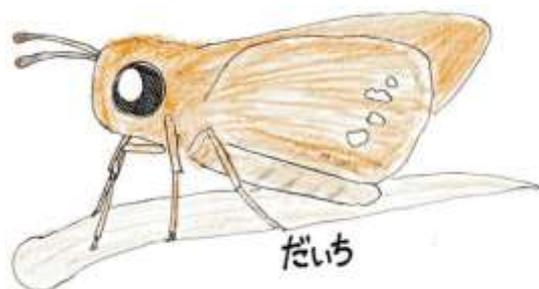
☆ 4/18(土) 春の草摘み～春の恵みをいただこう！

集合：大道小9時 解散：ちとせ園15時頃

参加費：会員¥100 非会員¥200

※詳細はホームページ及びメーリングリストで

☆会員のつどいとホタル観察会は、6/6(土)か13(土)を予定しています。



■ 学生部の活動…詳細は決まり次第連絡します。

☆ 4/4(土) 新入生歓迎遠足

☆ 4/26(日) 定例調査・ハゼ類産卵状況調査

☆ 5/24(日) 定例調査・ハゼ類産卵状況調査

☆ 5月末～7月初ホタル調査



会のホームページはこちら→ <http://ji.jyukai.web.fc2.com/>
会報をカラーで見ることができます。

● 2015年度会費納入のお願い

4月から新年度になります。新年度分の会費の納入を**6月中**にお願いいたします。

現金での支払いは間違いのもとになりますので、必ず郵便局払込票で支払ってください。

口座記号番号：00230-5-68634 加入者名：ふるさと侍従川に親しむ会

年会費：大人3,000円 大学生以下1,500円

ふるさと侍従川に親しむ会 事務局 長橋 輝明

TEL：080-7697-8181 e-mail：sunhearts21@gmail.com

《編集後記》 もうすぐ新年度が始まります。進学する子どもたちは、ワクワク・ドキドキでしょうね。来年度はどんな子どもたちが参加してくれるのか楽しみです。 (MK)